

ことしも残すところ1カ月余り。年が明ければすぐに国家試験に突入します。4年生にとっては正念場の時。各学科・専攻の取り組みを紹介するとともに、国試対策担当の先生方から「ひと言」エールをいただきました。

近づく本番

国試突破へ正念場

医学検査学科

グループで勉強習慣化

例年、国家試験対策として実施している模擬試験や補習講義に加え、今年度は勉強の習慣化及び勉強方法を友達から学ぶことを目指して、4月からグループ学習を行いました。補習講義では問題を解いた後に解説を行う形式をとっています。補習講義は国家試験直前まで実施予定です。

<ひと言エール>

国家試験まで残された時間を大切に。毎日の積み重ねが必ず点数につながります。仲間と一緒に頑張りましょう！（上妻行則、山口類、原口実紗）

看護学科

学生委員を中心に一丸

学生委員18人が主体となって国家試験対策年間スケジュールを決め、教員のサポートのもと、「全員合格！」を合言葉に一丸となって受験に取り組んでいます。講義や実習、看護研究等と並行して、模試や補講・夏期冬期講座を受け「看護の力」を確かなものにしていきます。

<ひと言エール>

時代に翻弄され制限の多かった大学生活を経て、ようやく宝石のような未来を描けるようになりましたね。今こそ、見せてやれ、底力！（大澤早苗）

リハ学科 理学療法学専攻

難易度上げた総合演習

「国家試験対策本の隅から隅まで勉強する」を目標に、理学療法総合演習の難易度を上げて、国家試験対策に取り組んでもらっています。学内外の講師による約20コマの特別講義も実施中です。

<ひと言エール>

インプットに加えて、友人に教えるアウトプットによって記憶が定着しやすくなります。分からないことは得意な同級生もしくは知識のある教員に気軽に聞く！ ポツチにならない！ フレーフレー14期生PT！（申敏哲、土井篤、中原和美、與座嘉康）

月1回の模試で知識定着

リハ学科 言語聴覚学専攻

今年度は、前期に基本的に知識の定着を目的とした講義と月1回の模擬試験を実施し、勉強の習慣を身につけるために各SGによるグループ学習を導入いたしました。後期は国家試験の実践に沿った授業ならびに模擬試験を実施しています。

<ひと言エール>

パスツールが「幸運の女神は準備している者にしか微笑まない」と言っている通り、日々計画を立てて勉強を継続することで合格に近づきます。一緒に頑張ってください。（池寄寛人、松尾朗）

10年分の過去問と向き合う

グループ学習を中心に、10年分の過去問等と向き合いながら全員合格を目指しています。インプットとアウトプットを組み合わせたアクティブラーニングを繰り返し実践することで、知識の定着をはかっています。

<ひと言エール>

これから寒くなりますので、体調に気を付けながら国試勉強頑張ってくださいね。全力で応援しています！（山野克明、仙波梨沙、吉村友希）

【国家試験日程】

資格	試験日	合格発表
助産師	2/8 (木)	3/22 (金)
保健師	2/9 (金)	
看護師	2/11 (日)	
臨床検査技師	2/14 (水)	3/21 (木)
言語聴覚士	2/17 (土)	3/26 (火)
理学療法士・作業療法士	2/18 (日)	3/21 (木)

リハ学科 生活機能療法学専攻

田中講師（理学療法学専攻）に学術奨励賞

公益財団法人肥後医育振興会の医学研究助成金及び外国人留学生奨学金の受賞式が16日（木）、肥後医育記念館（熊本市中央区）であり、リハビリテーション学科理学療法学専攻の田中貴士講師＝写真＝が「高齢マウスの脳内遺伝子解析に基づく神経修復メカニズムの解明」の研究で医学研究助成金（学術奨励賞）を受賞しました。

肥後医育振興会は、熊本県内の地域医療の向上、県民の健康増進や、国内の医学・医療の進展に寄与するため、優れた若手研究者に対して医学研究助成金を授与しています。今回は11人の応募があり、4人が受賞しました。

田中講師は「240年の肥後医育の伝統をくむ研究助成及び奨励賞に身が引き締まる思いです。地域医療の向上と住民の健康増進に尽力していきます」とのコメントを寄せてくれました。（入試・広報課）



路上の草を刈り取ったり、集めたりする参加者たち

刈り取った草を積み込む参加者たち



地域住民と共に 井芹川大清掃

西里校区の井芹川流域大清掃が12日（日）に実施され、本学からも学生、教職員計60人が参加しました。「西里校区全住民による井芹川環境美化大作戦」のスローガンのもと、毎年、地域挙げて実施している活動で、今年で通算27回目。本学は12回目の参加となります。

午前7時50分に1号館玄関前に集合した本学参加者は、担当者から簡単な説明を受けた後、軍手や鎌、移植ごてなどを受け取り、作業を開始。大学の敷地に面した川沿いの道路を両側から真ん中に向けて作業を行いました。川沿いの柵に絡まった蔦をほどいたり、路上の草を刈り取ったり、地域の方々が草刈り機で刈った草をトラックに積み込んだりしました。また西里まちづくり委員会からの依頼で花壇に花の苗も植えました。

作業は1時間ほどで終了し、参加者には大学から心ばかりの品が渡されました。（入試・広報課）



川沿いの柵に絡まった蔦を引き抜く学生たち（左）

衛生委員会主催の「こころのケア研修会」が17日（金）、オンライン開催され、熊本産業保健総合支援センターの村上千佳子氏が「がんばっているあなたへ伝えたい 自身の心の健康をまもるメンタルヘルスセルフケア」と題して講演しました。

教職員14人が参加。村上氏は、近年、日本人のおよそ30人に1人が心の病気で入院や通院をしており、職業生活では半数以上の労働者が何らかの強いストレスを感じていると説明。セルフケアとして、ストレスを緩和する「3つのR」（Rest、Recreation、Relaxation）を意識し、心の病気の要因となる日常生活のストレスや思いがけないストレスに対処していくことが大切だと話しました。

講演の最後には、村上氏の指導で2人1組になり、交互に話し手と聞き手となって「傾聴」を体験。参加者は「傾聴には、信頼関係の形成・気持ちの鎮静化・自己理解や気づきの効果があり、職場でも大切にすべきことだと感じました」などと感想を述べていました。（衛生委員会）



看護学科
伊山 聡子 助教



“一球入魂”の気持ち忘れず

私には忘れられない青春時代がある。中学・高校とソフトボールに明け暮れた日々。着る服は制服と練習着とユニホーム。週末や連休は練習試合に公式戦、合宿…。一年中、日に焼けていた。高校時代、唯一勝てないライバルチームがあった。「打倒！〇〇高校」とチームで目標を掲げ、練習後の自主トレも重ねた。

そんなチームメイトとは今でも交流があり、集まると当時に戻って大笑いしながら思い出話にふける。仲間のおかげであの時にしかできないことをやり遂げられた…と、感謝の想いで心が温まる。ソフトボールを通し経験した全てが学びであった。両親・家族の支えもあり6年間、かけがえのない時を過ごせたことにも感謝している。

そうそう！最後の高校総体。目標であったライバルチームに勝利した。あの感動は一生忘れられない。かなりの年月（笑）が経っても未だ残る「一球入魂」の熱い気持ちで、これからも自分らしく生きていきたい。

銀杏アラカルト

■学校推薦型選抜 主要な年内入試の一つである学校推薦型選抜（指定校・公募）が18日（土）に実施され、受験生たちは午前中に筆記試験、午後は面接試験に臨みました。朝からあいにくの雨模様でしたが、一人の遅刻

者、欠席者もなく両試験とも滞りなく終了しました。なお、学校推薦型選抜の合格発表は12月1日（金）に行われます。

（入試・広報課）

インフォメーション

週間行事予定（11月28日～12月4日）

11 / 29 (水)	理事会
12 / 1 (金)	国際シンポジウム（オンライン開催）
12 / 2 (土)	助産別科一般入試
12 / 3 (日)	チャレンジ熊保大！一般選抜対策講座

◆クリスマスイルミネーション点灯式 12月4日（月）18時、キャンパススクエアでクリスマスイルミネーションの点灯式が開催。学友会会員によるトーンチャイム演奏が花を添えます。イルミネーションはキャンパススクエ

ア、レストラン前通路から3号館への渡り廊下周辺、2号館下、アリーナ前、正面玄関等に設置。授業終了時から21時まで点灯されません。25日（月）まで。